

(別紙)

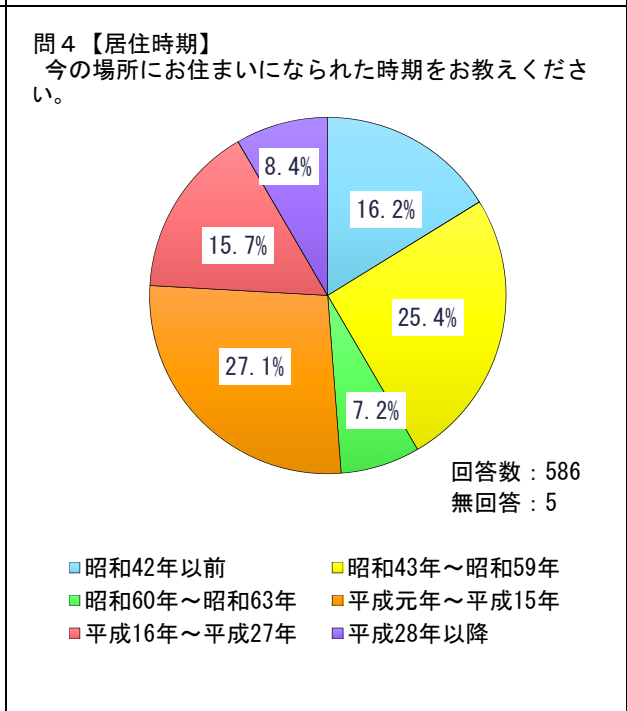
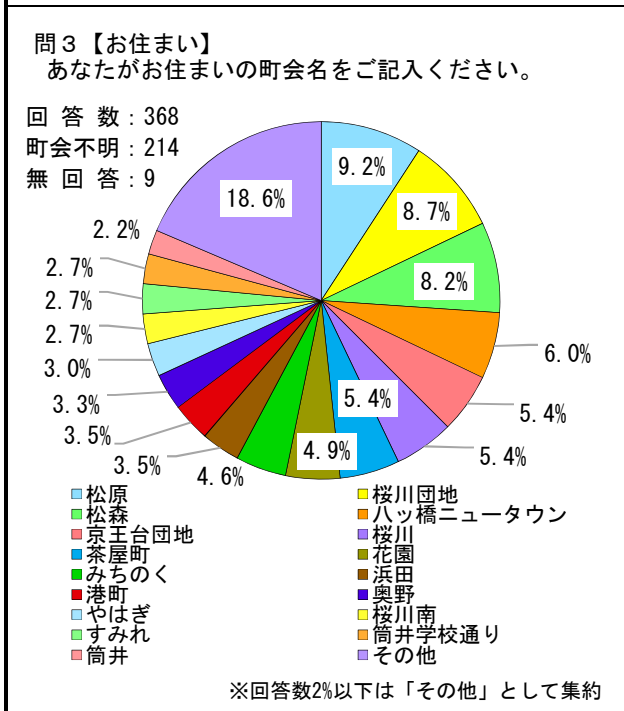
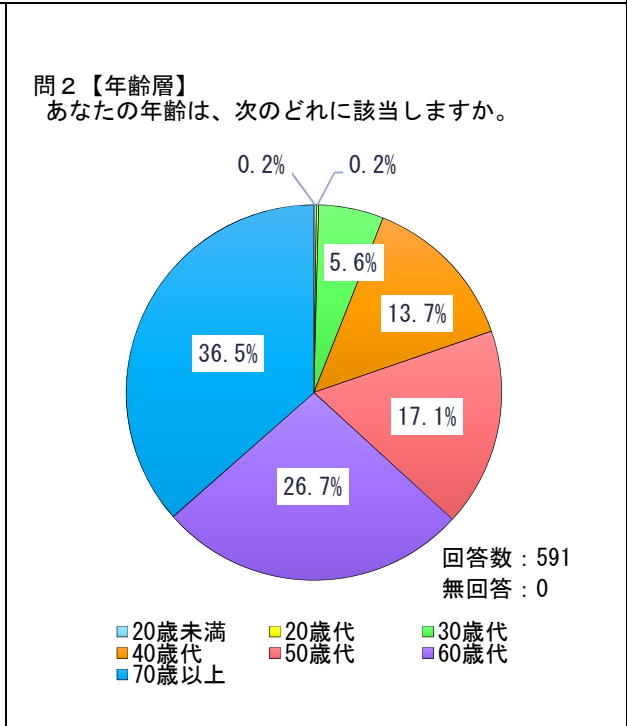
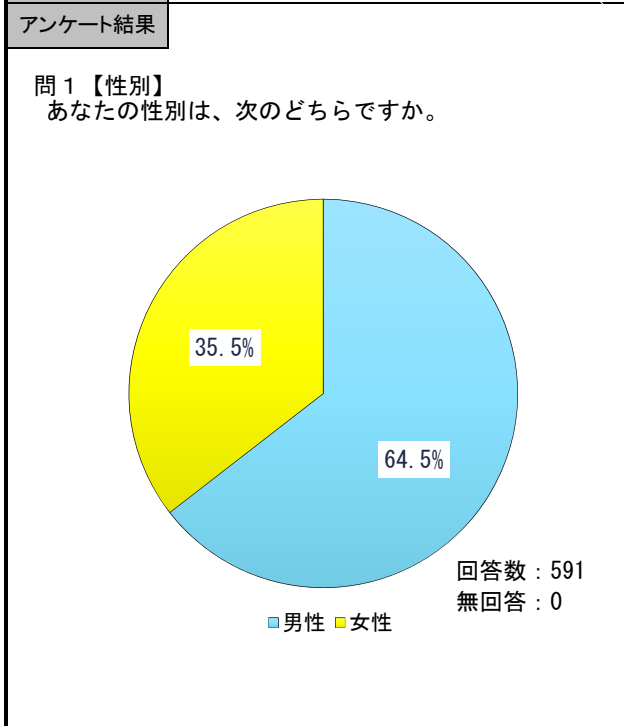
事後評価アンケート結果

(1/10)

整理番号	R2 - 3
------	--------

事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川
-----	--------------	------	----

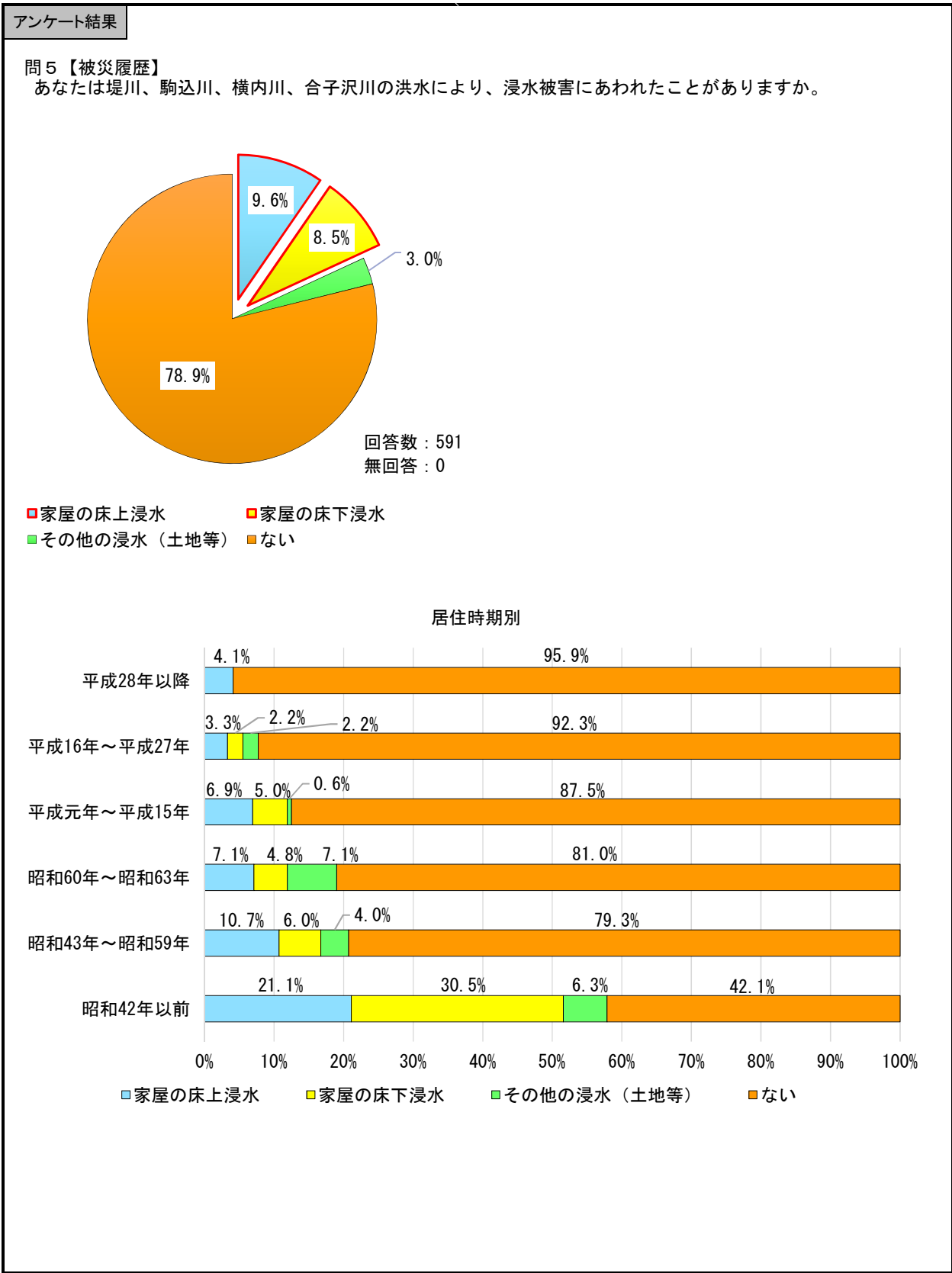
アンケート対象	当該河川に隣接する町内会の構成世帯		
配布方法	委託業者による直接配付 (配付開始日: 令和2年4月30日)	(配布部数)	1,300 部
回収方法	郵送(受取人払)により回収 (締切日: 令和2年5月22日)	(回収部数)	591 部
回収率	45.5%		



事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3
------	----	---	---

事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川
-----	--------------	------	----

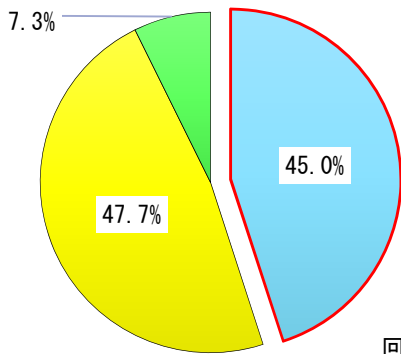


事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3	
事業名	堤川流域治水対策河川事業		箇所名等	堤川

アンケート結果

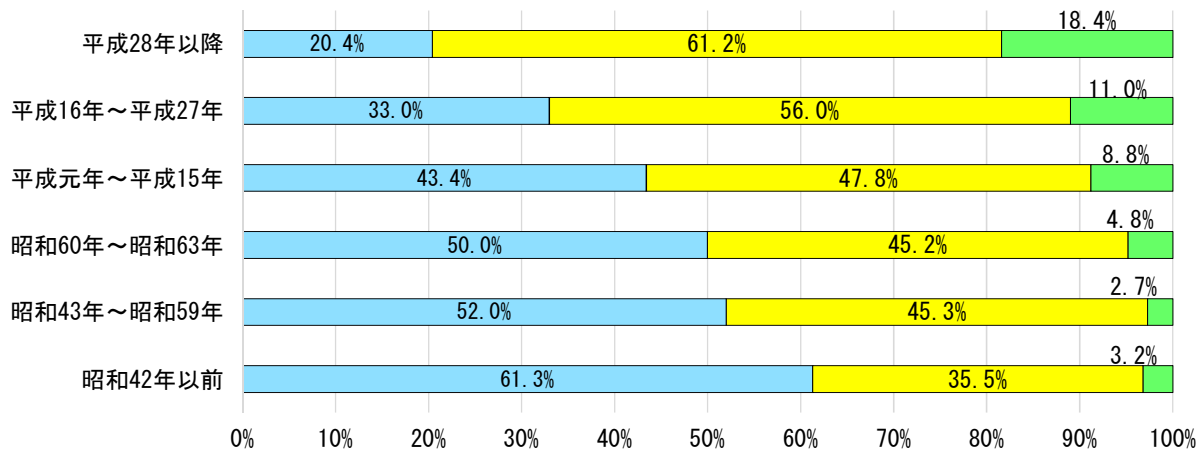
問6【認知度】
今回のアンケートの事業をご存じですか。



回答数：587
無回答：4

- 事業が行われたことを知っている
- 事業が行われたことは知らないが、場所なら知っている
- 事業が行われたことも、場所も知らない

居住時期別



- 事業が行われたことを知っている
- 事業が行われたことは知らないが、場所なら知っている
- 事業が行われたことも、場所も知らない

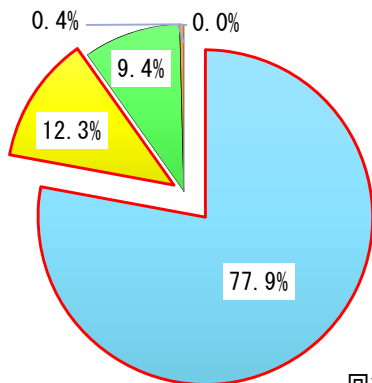
事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3
事業名	堤川流域治水対策河川事業		箇所名等
			堤川

アンケート結果

問7【必要度】

地域にとって堤川、駒込川、横内川、合子沢川の改修事業は必要であったと思いますか。



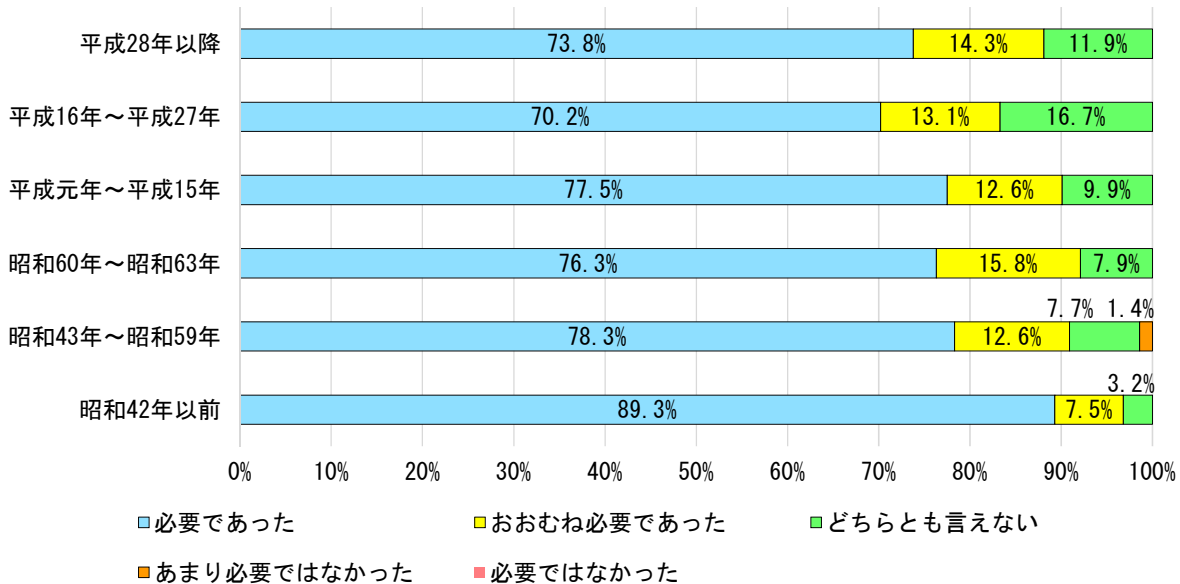
回答数：555
無回答：36

- 必要であった
- おおむね必要であった
- どちらとも言えない
- あまり必要ではなかった
- 必要ではなかった

【主な意見】

- 必要であった（おおむね必要であった）理由
 - ・ 昭和44年に被害を受けていたため
 - ・ 改修後に被害を受けていないため
 - ・ 大雨時の水位を見ると心配になるため
- どちらとも言えない（わからない）理由
 - ・ 改修後に利点がそう多くないと感じたため
 - ・ 緑地等が失われたが効果が不明なため
 - ・ 居住してから大雨等の経験がないため比較できない
 - ・ 浸水被害の事を知らない
- 必要ではなかった（あまり必要ではなかった）理由
 - ・ コメントなし

居住時期別



- 必要であった
- おおむね必要であった
- どちらとも言えない
- あまり必要ではなかった
- 必要ではなかった

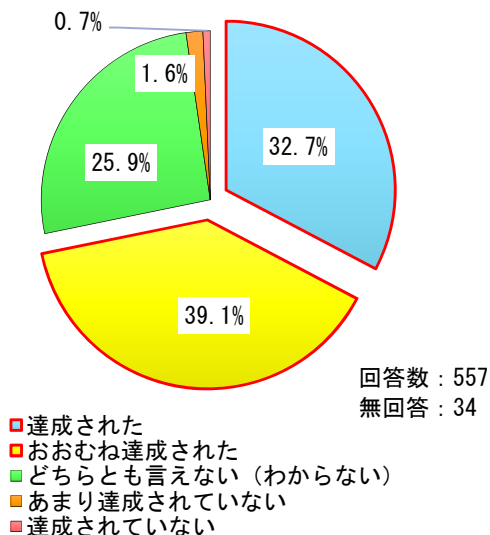
事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3
事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川

アンケート結果

問8【達成度】

堤川、駒込川、横内川、合子沢川の改修事業が完了したことにより、改修前に比べると洪水による浸水被害が軽減（事業目的が達成）されたと思いますか。



【主な意見】

○達成された（おおむね達成された）理由

- ・最近被害が発生していない
- ・台風・大雨でも水位が上がったとあまり感じない
- ・堤防が高くなり安心感がある

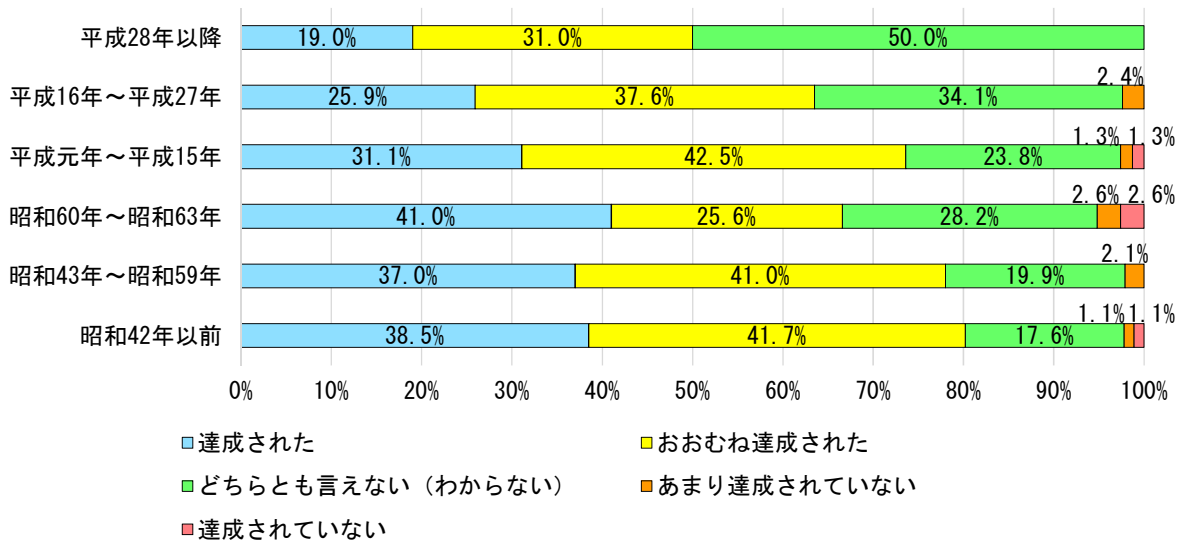
○どちらとも言えない（わからない）理由

- ・比較できる情報がないためわからない
- ・事業後、洪水が発生していないためわからない

○達成されていない（あまり達成されていない）理由

- ・近年の他県の洪水被害と同じだけ降っても耐えられるかわからない
- ・川底に泥がたまり水位が上がりやすくなっている

居住時期別



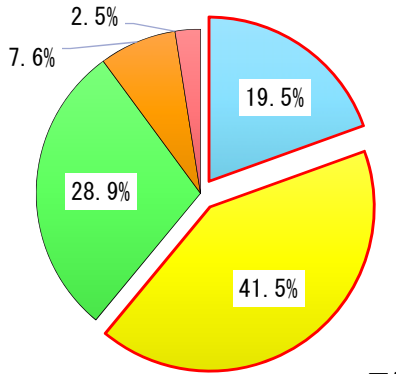
事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3
事業名	堤川流域治水対策河川事業		箇所名等
			堤川

アンケート結果

問9【管理状況】

この事業を実施した堤川、駒込川、横内川、合子沢川は、青森県が管理しておりますが、管理は適切に行われていると思いますか。



回答数：553
無回答：38

- 適切
- おおむね適切
- どちらとも言えない (わからない)
- あまり適切でない
- 適切でない

【主な意見】

○適切 (おおむね適切) の理由

- ・特に問題が生じていないため
- ・土砂、雑木の撤去が実施されている

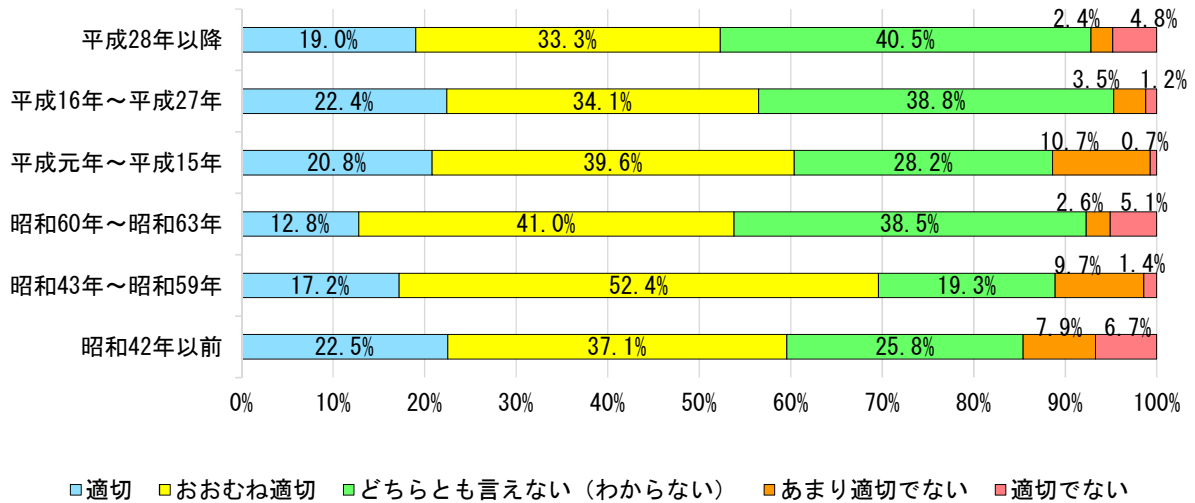
○どちらとも言えない (わからない) の理由

- ・川の様子を見ていないため
- ・どのように管理しているのか発信してほしい

○適切でない (あまり適切でない) の理由

- ・ボートが不法に川を利用している
- ・土砂、雑木の撤去が不十分

居住時期別



事後評価アンケート結果

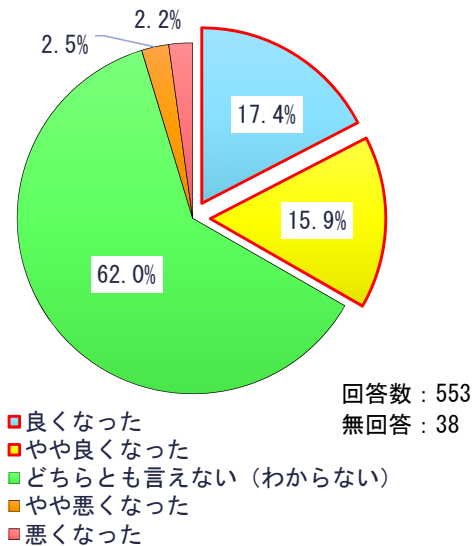
(7/10)

整理番号	R2	-	3	
事業名	堤川流域治水対策河川事業		箇所名等	堤川

アンケート結果

問10【環境変化】

この事業の実施により、動植物の生息環境や水質、景観等が、事業実施前と比べてどう変化しましたか。



【主な意見】

○良くなった(やや良くなった)の理由

- ・景観が良くなった
- ・歩きやすくなった
- ・悪臭が少なくなった

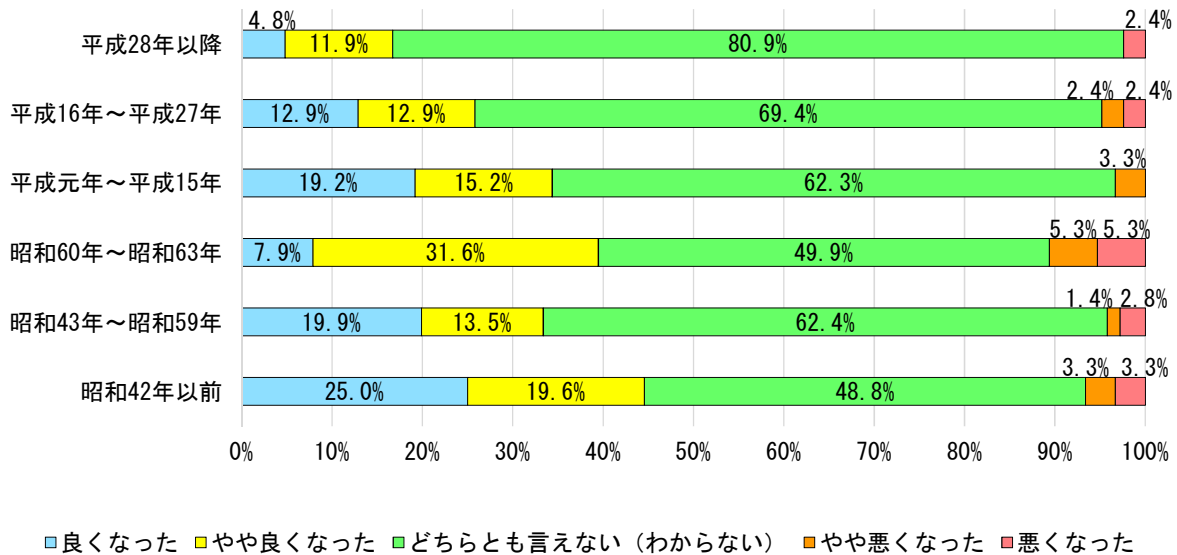
○どちらとも言えない(わからない)の理由

- ・変わらないと思う
- ・わからないので逆に発信してほしい

○悪くなった(やや悪くなった)の理由

- ・コンクリートばかりで景観が悪くなった
- ・野鳥や魚等の生物が少なくなった

居住時期別



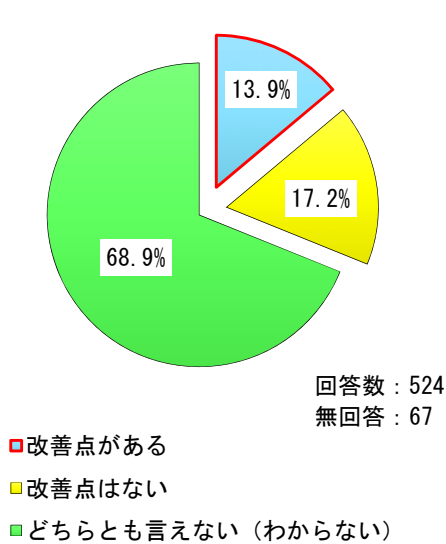
事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3	
事業名	堤川流域治水対策河川事業		箇所名等	堤川

アンケート結果

問11【改善点】

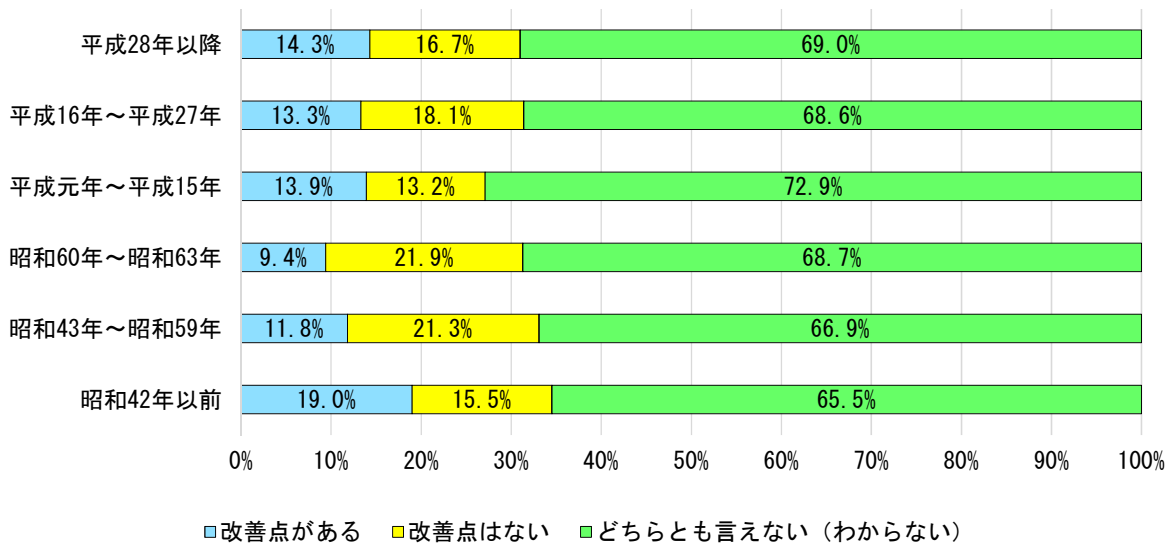
この事業で行った工事や完成した施設について、改善した方がよいと思う点がありますか。



【主な意見】

- 改善点があるの理由
 - ・水に親しめるような場所にしてほしい
 - ・土砂や草木は、増えすぎないようにしてほしい
 - ・近年の豪雨に対しては現状の施設でも心配である
- 改善点はないの理由
 - ・水害もなくなったのでそのまま保全してほしい
 - ・現状で問題ない
- どちらとも言えない(わからない)の理由
 - ・素人にはわからない
 - ・長いスパンで観察するべき

居住時期別



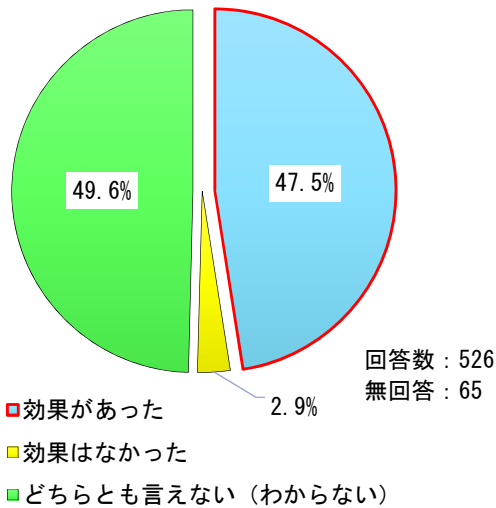
事後評価アンケート結果

整理番号	R2	-	3
事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川

アンケート結果

問12【その他効果】

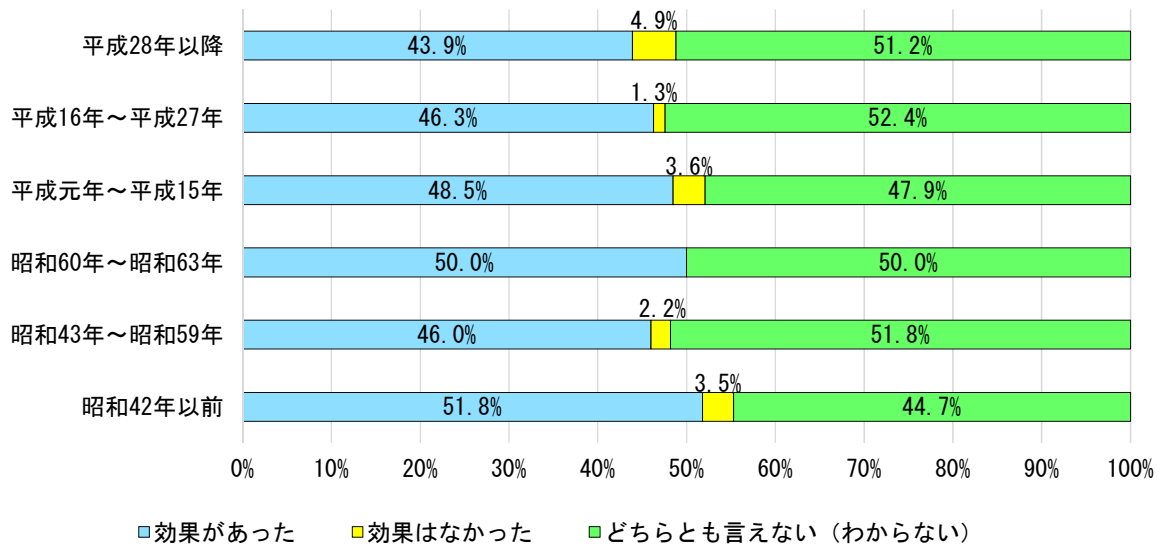
この事業を行ったことが地域活性化に結びついたなど、洪水による浸水被害の解消以外に効果（例えば横内川多目的遊水地の利活用など）があったと思いますか。



【主な意見】

- 効果があった理由
 - ・市民のスポーツ、憩いの場となった。
 - ・多目的遊水地の有効活用ができている（マルシェなど）
 - ・住人が増えたのではない
- 効果はなかった理由
 - ・活性化しているとは聞いたことがない
 - ・治水対策であり地域活性化とは考えられない
- どちらとも言えない（わからない）理由
 - ・実感していないのでわからない
 - ・横内川多目的遊水地がわからない

居住時期別



事後評価アンケート結果

(10/10)

		整理番号	R2	-	3
事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川		

アンケート結果

問13【その他意見（アンケート対象事業）】

この事業に対して、その他のご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせください。

- ・盛岡市の北上川や雫石川のような、美しい川に整備してほしい
- ・堤防上の遊歩道（自転車道路）の整備や管理もお願いしたい
- ・今は安心して暮らせるので要望はありません
- ・堤川河口の堤防が低いように思う
- ・情報が乏しいため、わからないの回答ばかりになってしまった
- ・公共事業による防災の取組について、もっと周知する必要がある
- ・約50年かけて整備してきた職員の方々に感謝を申し上げたい

問14【公共事業全般】

この事業に限らず、公共事業についてご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせください。

- ・何事もすみやかに計画実施されることを望みます
- ・住みにくさを感じないので、今後も適切な管理の継続をお願いします
- ・河川付近で畑を作っている人がいる、もっと対策してほしい
- ・融雪溝や歩道の整備をしてほしい
- ・魚を増やす事業をやってほしい
- ・子供たちが遊べる河原がほしい
- ・このようなアンケートを沢山実施した方がいいかと思えます
- ・このようなアンケート、必要があるのでしょうか
- ・桜川、勝田、奥野地区などは高齢化が進んでいる。町の美観よりも住んでいる人の労力を考えて頂きたい
- ・コンパクトシティのため、これ以上水田を宅地化するのはやめるべき
- ・冬に公共工事をたくさん実施しているが、除雪しながらの工事は効率が悪いと思う

(別紙)

費用対効果分析説明資料

整理番号 R2 - 3

事業名	流域治水対策事業	箇所名等	堤川
-----	----------	------	----

【費用対効果の算定内容】

1. 費用対効果の算定根拠

算定については、『治水経済調査マニュアル(案)』(令和2年4月 国土交通省 水管理・国土保全局)に基づき行った。
 本マニュアルにおいては、経済評価するうえで洪水氾濫被害の防止効果および整備した施設の評価対象期間終了後における価値を便益(B)とし、事業着手時点から完成に至るまでの総建設費と、評価対象期間内における維持管理費を費用(C)として、それぞれ現在価値化したものを評価することとしている。

2. 算定の前提条件

- (1) 評価基準年度: 令和2年度
- (2) 評価期間: 整備期間+施設完成後の評価期間(50年間)
- (3) 費用及び便益の現在価値: 投資額、耐用年数期間内に発生する年間便益を、現在価値化(社会的割引率4%)して用いる。

3. 総費用(C)の算定

(建設費) (維持管理費)

総費用(現在価値) = 130,345 百万円 + 15,575 百万円 = 145,920 百万円
 建設費及び維持管理費を年度別に設定し、現在価値化した。

4. 総便益(B)の算定

(治水) (残存価値)

総便益(現在価値) = 508,952 百万円 + 252 百万円 = 509,204 百万円
 想定氾濫区域における家屋・家庭用品・農作物・公共土木施設等の洪水氾濫被害が河川事業によって軽減される額を算定し、現在価値化した。また、整備した施設の評価対象期間終了後における価値(残存価値)を算定し、現在価値化した。

【前回評価時からの増減内容】

区分	主な項目	前回評価時 (平成25年)	事後評価時 (令和2年)	増減額	増減理由
費用項目 (C)	算定基準年	平成25年	令和2年		
	(1) 建設費	98,905 百万円	130,345 百万円	31,440 百万円	現在価値化基準年度の変更による増
	(2) 維持管理費	11,783 百万円	15,575 百万円	3,792 百万円	現在価値化基準年度の変更による増
	総費用(C)	110,688 百万円	145,920 百万円	35,232 百万円	
便益項目 (B)	算定基準年	平成25年	令和2年		
	(1) 治水	448,227 百万円	508,952 百万円	60,725 百万円	現在価値化基準年度の変更による増
	(2) 残存価値	252 百万円	252 百万円	0 百万円	
	総便益(B)	448,479 百万円	509,204 百万円	60,725 百万円	
費用便益比(B/C)		4.05	3.49		

【費用対効果分析の結果】

$$B(\text{総便益}) / C(\text{総費用}) = 509,204 \text{ 百万円} / 145,920 \text{ 百万円} = 3.49$$

(別紙)

事後評価箇所状況写真

(1/3)

整理番号	R2	-	3
------	----	---	---

事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川
-----	--------------	------	----

【状況写真】

○堤川（松園橋付近）

事業実施前の状況



(昭和40年代前半 撮影)

事業実施後の状況



(平成29年 撮影)

○駒込川（八甲橋付近）

事業実施前の状況



(昭和40年代前半 撮影)

事業実施後の状況



(平成29年 撮影)

○横内川（上四ツ石橋付近）

事業実施前の状況



(平成20年 撮影)

事業実施後の状況



(平成27年 撮影)

○合子沢川（神田橋付近）

事業実施前の状況



(平成21年 撮影)

事業実施後の状況



(平成27年 撮影)

(別紙)

事後評価箇所状況写真

(2/3)

整理番号	R2	-	3
------	----	---	---

事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川
-----	--------------	------	----

【状況写真】

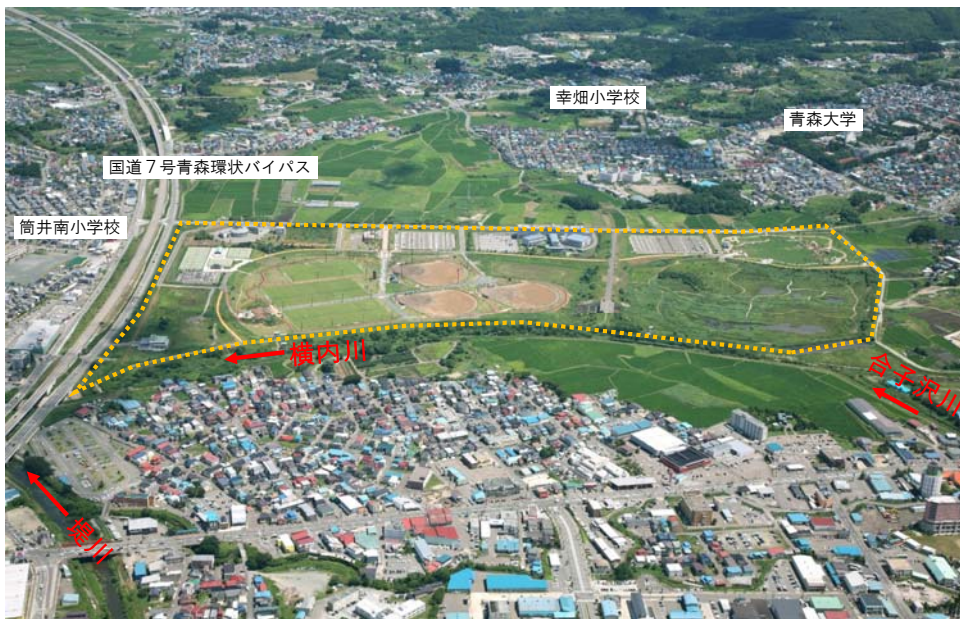
○横内川多目的遊水地

事業実施前の状況



(昭和61年 撮影)

事業実施後の状況



(平成20年 撮影)

(別紙)

事後評価箇所状況写真

(3/3)

整理番号 R2 - 3

事業名	堤川流域治水対策河川事業	箇所名等	堤川
-----	--------------	------	----

【被災写真】

○ 昭和44年8月台風9号による被害

(花園町付近)



(昭和44年 撮影)

(甲田橋下流付近)



(昭和44年 撮影)

【航空写真】



(平成29年 撮影)



(平成29年 撮影)

公共事業事後評価調書 記載要領

※記載すべき項目がない場合は、「－」とする。「特になし」「なし」「空欄」としない。

※同種の事業については、表記の仕方、数値の入れ方等について関係課で調整を図った上で記載すること。

1 事業概要	
項目	記載要領
整理番号	■企画調整課があらかじめ割り当てた番号を記載する。（2ページ目右上にも記載）
事業種別	■県の担当課、国の所管部局等で用いている当該事業の大まかな種別を記載する。 （農業農村整備事業、治山事業、道路事業、河川事業等）
事業主体	■当該事業を実施する主体を記載する。
事業名	■具体的な事業の名称を記載する。
管理主体	■当該事業を管理する主体を記載する。
箇所名等 (市町村名)	■当該事業を実施する箇所（区間、区域、地区等国庫補助事業等に係る採択区分単位）の名称を記載する。（ ）内に市町村名を記載する。
事業方法	■国庫補助、交付金、県単独のうち該当のものを「●」にする。
財源・負担区分	■国、県、市町村、その他のうち該当のものを「●」にし、事業費負担割合を記載する。（単位：％）
事業の背景・必要性	■事業着手に至った背景・課題・必要性等を記載する。
主な事業内容 (事業量)	■当該箇所で開催した事業内容等を記載する。 ・工種ごとの工事内容（規模：面積、延長等） ・必要に応じて、事業工程（基本設計、用地買収着手、工事着手、完成、供用開始等）ごとの当該事業の主な実施内容（工種、規模等）
想定した事業効果	《金銭価値化が可能な効果》 ■金銭価値化が可能な効果について、想定した事業効果を記載する。 《その他の効果》 ■金銭価値化が困難な効果等(定量的・定性的効果)について、想定した事業効果を記載する。
事業の実施経過	■当該箇所の事業着手、用地着手、工事着手及び事業完了の年度を記載する。
公共事業評価の実施時期	■公共事業評価の実施時期を（ ）内に記載する。（※再々評価している場合は適宜、欄を追加） ■「事業期間（事業着手～事業完了）」欄は各評価時点での事業期間を記載する。 ■「総事業費」欄は各評価時点での総事業費を記載する。
計画変更の実施時期	■計画変更の実施時期を（ ）内に記載する。 ■「事業期間（事業着手～事業完了）」欄は各計画変更時点での事業期間を記載する。 ■「総事業費」欄は各計画変更時点での総事業費を記載する。
特記事項	■再評価理由、再評価結果（対応方針、附帯意見等）を記載する。 ■計画変更の理由、変更の内容を記載する。 ■その他特記事項があれば記載する。
《事業概要図》	■位置図、平面図、標準断面図等を掲載する。

担当部課室名	■担当部及び課室名を記載する。
電話番号	■担当課の直通番号を記載する。
E-MAIL	■担当課のE-メールアドレスを記載する。

2 事業完了後の状況

項目	記載要領
社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ■事業効果の発現状況等に特に影響を及ぼしたと考えられる変化（社会経済情勢、上位計画、関連事業等の変化等）があれば、その内容を記載する。
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<ul style="list-style-type: none"> ■費用対効果分析算定の基礎諸元に変化があれば、その内容を記載する。
事業効果の発現状況	<p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [想定した事業効果] に記載した金銭価値化が可能な効果の発現状況を記載する。 ■ 「必要度」と「達成度」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。 ■ 図、グラフ、写真等を用いてビジュアル化し、分かりやすく表現する。 ■ 具体的なデータ等により数字を示せるものはできる限り記載する。 <p>《その他の効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [想定した事業効果] に記載した金銭価値化が困難な効果等（定量的・定性的効果）の発現状況を記載する。 ■ 「必要度」と「達成度」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。 ■ 「その他効果」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。 ■ 具体的なデータ等により数字を示せるものはできる限り記載する。 <p>《参考（費用便益比）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ B/C値は小数点以下第3位を四捨五入する。 ■ 事後評価のB/C算定に当たっては、既存データや近傍データ等の入手可能なデータ利用など、簡易な方法でも可とする。 ■ 事後評価のB/C算定に当たっては、基準年は事後評価年度とする。 ■ 事前評価制度の制定前に着手した箇所については、当初計画時にB/Cを算出している場合は、その数値を「事前評価時」欄に記載する。 <p>《特記事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 他事業等への効果や波及的な効果が認められる場合は記載する。
事業により整備された施設の管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 管理の状況及び管理上課題がある場合はその内容と対応方針を記載する。 ■ 「管理状況」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。
事業実施による環境の変化	<p>《「環境影響への配慮」の効果発現状況（特に留意した配慮内容がある場合）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 事業実施中に特に留意した内容がある場合は、その効果発現状況を記載する。 ■ ここでの環境は自然環境のほかに生活環境や歴史的・文化的環境も含む。 ■ 「環境変化」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。 ■ 具体的なデータ等により数字を示せるものはできるだけ記載する。 <p>《その他の環境の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記以外の主な環境の変化を記載する。 ■ 「環境変化」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。 ■ 具体的なデータ等により数字を示せるものはできるだけ記載する。

3 まとめ

項目	記載要領
改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「改善点」に関するアンケート結果を踏まえ記載する。 ■ 事業完了後の状況で、効果発現状況、管理状況、環境変化、アンケート結果で課題がある場合は、その内容とそれに対する対応方針（改善措置）を記載する。
再度の事後評価の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業効果の発現状況、環境変化の可能性、また上記に係る改善措置の経過確認の必要性などの観点から、再度の事後評価の必要性について記載する。 ■ 状況が軽微な場合は、当該項目の継続評価（観測）、状況報告等の簡易な対応について記載する。
今後に向けた留意点	<p>《同種事業の計画・調査の在り方》</p> <p>《事業評価手法の見直し》</p> <p>《同種事業の内容・手法等の在り方》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 設計段階において別の方法が考えられなかったか、こういう視点からも検討が必要ではなかったか等の視点を持って、波及的な効果、将来の展望等を踏まえて記載する。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特記事項があれば記載する。